

土壌・地下水汚染調査のポイント 留意すべき地盤：難透水層を貫通

難透水層貫通⇒下位の透水層に汚染拡大

⇒ケーシングで遮水しながら調査

観測孔のスクリーンが複数の帯水層にまたがる⇒汚染拡大

⇒帯水層ごとに複数の観測井を設置

土壌・地下水汚染調査のポイント

留意すべき地盤：自然由来汚染が想定される地盤

火山、温泉、海成の沖積層など⇒自然由来重金属含有可能性あり

比較的広範囲にわたって存在⇒「自然由来特例」の調査を実施

土壌汚染に遭遇⇒適切に処置（拡散防止措置、処理施設で処理等）

事前に、汚染度の発生予測、汚染影響の評価が必要な場合もあり

土壌・地下水汚染調査のポイント

調査すべき項目

特定有害物質の特定、汚染の有無、試料採取場所・深さの設定

⇒地歴調査

土壌・地下水中の土壌汚染有無の確認

⇒土壌ガス調査、ボーリング調査、土壌調査

土壌・地下水汚染調査のポイント

調査の段階的な実施

地歴調査⇒資料調査、聴取調査、現地調査

第一種特定有害物質対象⇒土壌ガス調査

第二種・第三種特有有害物質対象⇒土壌調査

土壌ガス検出地点、特定調査、対策目的の詳細調査⇒ボーリング調査

土壌・地下水汚染調査のポイント 関係基準・法令等と積算時の留意事項

基準等：環境省『土壌汚染対策法に基づく調査及び措置に関するガイドライン』

地歴調査、試料採取計画の立案・解析・報告はコンサルティング業務

段階的な調査の計画・実施：前段の結果⇒次ステップの内容決定

地点設定のための測量費や汚染された残土・汚水の適切な処理費計上

ボーリングは、汚染調査用のボーリングマシンとサンプラーを使用